

■ 2020年度 入試問題分析シート ■

慶應義塾大学

薬学部

科目	数学
----	----

総括

試験時間	80分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	100点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年と同じく、大問3題の構成であり、〔I〕の小問も7問である。
 〔I〕は幅広い分野から出題されているが、機械的に終われる問題と発想を要する問題との差が激しい。
 〔II〕は図形と方程式、微分法、積分法、〔III〕はデータの分析からの出題である。
 深く考え込むような問題はないので、見かけ上は易しく思えるが、工夫の余地もなく根気強く作業をするしかない問題も含まれるので、受験生の感想としては例年通りに映ったであろうか。

〈特記事項・トピックス〉

「確率」が小問で出題され軽い扱いになっている。
 例年出題されている「ベクトル」「整数」が出題されていない。
 「平面図形(初等幾何)」「データの分析」の出題は珍しい。

〈合格への学習対策〉

標準的な出題とはいえ、パターンをあてはめるだけでは厳しい問題も多い。条件を吟味し、式や図形の構造を把握するといった、記述式答案を仕上げるような地道な学習が求められる。今年は例年のような計算量の多い問題はなかったが、それでも、単純作業が長々と続く問題など根気の必要な問題も見られた。どんな問題でも最後まで解き切ることを普段から心掛けたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
〔I〕 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	空所補充	II	積分法	定積分を含む関数の決定。	やや易
			指数・対数	対数不等式を満たす自然数の個数。	標準
			確率	3つの円形テーブルに着席する確率。	標準
			平面図形	直角三角形の条件から線分の長さを求める。	標準
			図形と方程式	放物線上に頂点がある三角形の重心の軌跡を求める。	標準
			数列	群数列の群内の和が末項の5倍以上となる最初の群。	標準
			図形と方程式、三角関数	回転して得られる点の座標を求める。	標準
〔II〕	空所補充	II	図形と方程式、微分法、積分法	2直線を境界とする領域と放物線を境界とする領域との共通部分の面積を最終的に求める。	標準
〔III〕	空所補充	I	データの分析	平均値と分散にまつわる計算と箱ひげ図。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。